

第2次健康増進計画策定のための分野別、ライフステージ別分析・健康課題

H30.6.28現在

	食生活	運動	こころ・休養	歯科・口腔	たばこ	アルコール	地域づくり	健康管理・がん検診・健康診査	糖尿病	救急医療
乳幼児期 0～5歳	間食が多い(3.6健診時アンケート) ・インスタント食品・ジュース・スナック菓子などをよく食べると答えた保護者が2割弱いる			・仕上げ磨きをする親の割合が低い69.1%(県72.9%、目標75.0%) (すこやか親子21) ・5歳児でう歯のない人が52.34%と少ない(県こどもの歯科保健統計)				・乳幼児健診受診率(保健事業概要) (H29年度) 1か月健診 96.9% 3ヶ月健診 98.4% 7ヶ月健診 97.0% 1歳6ヶ月健診 97.8% 3歳6ヶ月健診 97.9% ⇒現状でも受診率は高いが目標は100%とし、目指しての取り組みが必要		
学童期 6～12歳	・甘いお菓子の次にジュースをおやつに摂る割合が多い(食育意識調査) ・コンビニ弁当やインスタント食品を週1回以上食べると答えた子どもが4割いる(食育意識調査) ・朝食の欠食は小学生→中学生と年齢が上がると増えて増える(ネットワーク調査) ・主食、主菜、副菜のそろった朝食を食べている子は2割弱と少ない(ネットワーク調査) ⇒朝食はとれていても内容が課題 朝食で野菜が摂れるような啓発が必要 ・毎日家族と一緒に食事をしていないと答えた子どもが2割弱いる(食育意識調査)		・若年層の自殺死亡数が0ではない	・8歳児で1人平均う歯本数が0.34本と多い(県0.26本) ・8歳児でう歯のない人の割合は76.44%(治療済み含む)(県80.63%) ・12歳児1人平均う歯本数は0.97本と多い(県0.81本) (県こどもの歯科保健統計)						
思春期 13～18歳	・甘いお菓子の次にジュースをおやつに摂る割合が多い(食育意識調査)			12～14歳児 ・歯肉炎に罹患していない人が77.86%と低い(県78.75%) ・う歯のない人が56.54%と少ない(県63.42%)						
青年期 19～39歳	20代 ・外食を利用する人が最も多い ・朝食をほとんど食べていない人が最も多い ・主食、主菜、副菜のそろった朝食をとっている人の割合は最も低い 共食の場に参加した経験は若い世代ほど少ない	・女性の20・30代で運動習慣のある人の割合が極端に少ない(子育て世代?) ・男性は40代が少ない(働き盛り?)	・ストレス解消法を持っていない人が24.7%と多い(県民意識調査) (県目標:持っている人が90.0%)	・かかりつけのある人が55%しかいない(健康意識調査) ・1日2回以上の歯磨きをする人が58.3%と少ない(健康意識調査) ・定期健診をする人の割合が22.7%と低い(健康意識調査)	・父親の喫煙率が高い(すこやか親子21) 1.6:42.7%(県39.1%、目標30.0%) 3.6:42.3%(県39.0%、目標30.0%) ・妊婦の喫煙率は減少傾向にはあるが、県の目標値(0.0%)には到達していない 市:2.8%(県2.8%)	・妊娠中の妊婦の飲酒率は2.3%と県(0.6%)よりも高い(すこやか親子21) ⇒県目標が0.0%のため、引き続きの保健指導等が大切 ・親が子どもにノンアルコール飲料を勧めることもある ⇒正しい知識の普及と親への教育が必要か	・20代、40代男性で地域のつながりが低い(健康意識調査)	・30代40代の男性の3割がBMIの判定が肥満と多い(健康意識調査)		認知度を上げる
壮年期 40～64歳	・野菜料理を毎食食べている人は16%と低く、特に20～50代が少ない(食育意識調査) ・間食は年代に関係なく「ほとんど毎日」摂っている人が多い(健康意識調査) ・高血圧の人でも塩分、薄味、油のことについて意識していない人が2割いる ・週3回以上朝食を欠食する人が男女共に県平均より高い	・女性30代、男性40代では運動を「する気がない」と答えている人が3割近くおり、多い ⇒時間がない中でもできるような「ながら運動」の情報提供が必要か(健康意識調査) ↓ メタボ対策	・思い悩んだ人の割合が各年代とも高い ⇒いかに思い留まり、実際に自殺企図へと進まないようにするかが大切 ・相談窓口を知っている人の割合が、多い年代でも30%と低く、解決方法の幅を広げるため、さらなる情報提供が必要 ・自殺死亡率が高い H29 29.72人(人口10万人対)	・歯周病と診断された人(過去も含む)が35%と多い(健康意識調査) ⇒ない人の中に受診していないために歯周病と診断されていないだけの人がいるのではないかと 60歳代以上の自分の歯の本数21.2本 ⇒「6024」を考えると市の現状はよくない	・男性の喫煙率が県平均と比べて高い ⇒受動喫煙の対策が必要 ・きっかけは「家族が吸っていた」「友人から勧められた」「職場の人が吸っていた」と環境要因が大きく影響するため、喫煙の連鎖を防ぐことが必要。具体的には友人に勧めない等の教育も必要か ・ COPDの認知度が41.5%と低い(県目標80%) ↓ ・肺がんが多いことへつながっている	・「節度ある適度な飲酒」が1日1合であることを知っている人の割合が58.8%(県民意識調査)、65.0%(健康意識調査)、(県58.6%、目標値100%)と低い ・「節度ある適度な飲酒」が1日1合であることを知っている人の割合が58.8%(県民意識調査)、65.0%(健康意識調査)、(県58.6%、目標値100%)と低い	・がん検診受診率(保健事業概要) 胃がん 8.3% 大腸がん 9.2% 肺がん 15.9% 子宮がん 8.7% 乳がん 9.8% 前立腺がん 5.4% と低い ・「全く受けていない」と答えた方の理由は1位「医療機関に定期受診」、2位「いつでも医療機関を受診できる」、4位「面倒だから」、だった ⇒検診の目的・意義等が伝わっていないのではないかと ↓ 社会参加することが健康づくりにつながっているという認識をもってもら	・糖尿病の合併症については最も認識のある「網膜症」でも約半数の人しか知らないという現状		
高齢前期 65～74歳	・週3回以上朝食を欠食する人が男女共に県平均より高い ・低栄養、肥満の方が総計30%を超えている(H29介護予防ニーズ調査) ・誰かと食事をする機会のない人も約20%いる(H29介護予防調査)	・ロコモの認識について31.4%の方が知っており、県平均(29.3%)よりは高いが、目標値(80%)には届いていない ・過去1年間に転倒したことが「何度も」「1度以上」と答えた人が34.7%いる	・ゲートキーパーの認知度が低い(健康意識調査) ・睡眠による休養が取れていると答えた人の割合が56.7%と県(63.0%)より低い(県民意識調査)				・近隣との交流が「なし」「3ヶ月に1回程度」が約10%あり、地域社会参加においても半数を超える人が「なし」と答えている(介護予防ニーズ調査) ⇒人との交流や社会参加が少ないことから、そのような方でも参加しやすい場の設定や見守り、声かけが必要 ↓ 社会参加することが健康づくりにつながっているという認識をもってもら	・国保医療費(入院+外来)の第2位が糖尿病(1位が精神疾患) ・要介護者の有病状況でみると糖尿病は27.6%(H29)と約1/4の方にあり、県23.2%、国21.9%と比べて高い(心臓病70.5%、筋・骨疾患58.0%、精神45.9%) ⇒有病率では他の疾患に比べると少ないが、症状が進行し透析になると医療費が増大すると考えられる ⇒若い頃からの予防と合併症等の普及が必要		
高齢後期 75歳以上	・週3回以上朝食を欠食する人が男女共に県平均より高い	・半数以上の方が転倒に不安を持っている(介護予防ニーズ調査) ・県平均より運動習慣のない人が多い(KDB) ↓ 筋力アップ、介護予防								
その他					・児童公園でH28年までは「敷地内禁煙」だったところが、H29では「自由に吸える」となったところがある					